「令和３年度 東京医療保健大学 点検・評価報告書」における教育研究活動等
の取組状況及び課題等に関しての外部評価委員からのご意見等について

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【今村委員】 1.インターネット配信による授業は一方通行になりがちですが、LMS による反転授業でアクティブ・ラーニングを促進されている取組について評価いたします。(27 頁)	【企画部 回答】 評価いただき誠にありがとうございます。学生に対する教育の質保証を教育 DX を活用して推進している本学としては、幸いにもコロナ禍においては大変有効なツールとして活用し成果を上げることができました。今後も更に有効な活用手法等の開発等を推進してまいります。
2.管理栄養士国家試験合格率が隔年で低くなっている要因についてご教示ください（29 頁）	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 近年、本学では国試合格ライン近辺の学生が多くなる傾向にあり、合格率が高低しているのはその学生の動向が微妙に影響するからと考えています。この学生たちは勉強を始める時期が遅く、2 月末の試験にもかかわらず年明けでも受験勉強をしていないということが多々あります。特に合格率が高かった翌年度は気を抜く学生が多くなり、そのため 1 日の勉強時間も少なく、勉強不足です。「勉強が続かない」、「管理栄養士は必要ないからやる気にならないが、とにかく受験はする」などの理由で、指導教員が叱咤激励してもどうにもならないことがあります。国試対策室では、合否ラインの学生には個人面談し、登校し勉強させる、対策講座を受講させる、などで勉強させるように指導しますが、合格点に達するまでには間に合わなかった学生が多くなり合格率が下がってしまったと考えます。また反対に合格率が低かった翌年度は対策に意欲的に取り組む学生が多くなる傾向があり、合格率の上昇につながっていると考えております。「合格できるレベルに到達するのが間に合わなかった」という結果にな

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	らないためには、少しでも早く勉強する環境にすることだと考えます。 卒業生に対する「早く勉強するためにはどうしたらいいか」という質問に「自分の現状を早く認識させることが重要」という回答が多かったので、本年度は前期から模擬試験を実施し、成績不良者へは面談を早く行うようにしています。また、ご家族のサポートも重要なので保護者へ対策講座の出欠状況、模擬試験結果を通知するようにしています。
3.IR 推進室における、入学選抜方法別追跡調査について高く評価いたします。調査結果について、入試枠見直し等の施策につなげられているのでしょうか。(29 頁)	【IR 推進室 回答】 特定年度（2017年度）入学者に対して入学から卒業までの追跡調査を令和3年度に初めて実施し、内部質保証推進室会議、アドミッション委員会及び全学の教務委員会に調査結果を提出しました。これまで大学として、入試の見直しにまでは至っていませんが、学科ごと（医療栄養、千葉看護学部など）にこれらのデータを利用して、入学後の教育方針の改善や国試受験対策に利用しています。
4.看護学科における OSCE 実施時の課題として、模擬患者の確保が考えられます。COML 等への委託でしょうか？模擬患者確保方法及び模擬患者の質平準化、標準化策についてご教示ください。(32 頁)	【医療保健学部看護学科 回答】 模擬患者の確保は内閣府 NPO のホームページに掲載されている響きあいネットワーク東京 SP の会へ委託しています。事業報告によると SP 育成事業に関して日本医学教育学会等で発表し、活動報告を配布することで COVID-19 禍においても施設依頼数が増加している状況のようです。質の平準化及び標準化につきましては、臨床実習前 OSCE 認定標準模擬患者や標準模擬患者養成担当者として認定書が発行されている方に担当いただいております。ベースのシナリオに基づいた模擬患者役を依頼しておりますが、変更時は説明会を設けるなど取り組んで参ります。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
5.非常勤講師との協働によるカリキュラム運営について評価いたします。（33 頁）	【医療保健学部看護学科 回答】 非常勤講師とは、引き続き 3P やカリキュラム、授業の運営状況等に関する情報共有を図りながら、今後、授業科目における DP 重み付け、履修系統図の見直し等に対してもご協力いただく予定です。
6.多大な労力をかけ学生との個別面談を実施し、学生指導の改善に取り組まれていることを高く評価いたします。一方、医療保健学部医療栄養学科及び立川看護学部看護学科の専任教員数は少なく、専任教員一人あたりの学生数が 20 人を超えている状況です。対応策について教えてください。(36 頁及び公開資料)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 ご指摘のように、教員数が少ない中学生個々の対応に苦慮していることは事実で、現在、各学年のアドバイザー並びに副アドバイザーひとり当たりの担当学生人数は、平均１年 23 名・２年 33 名・３年 28 名・４年 29 名であります。担当教員が計画的に年２回程度個別面談を実施し、必要に応じて適宜面談を実施し学生対応をしております。しかし、年々個別に対応せざるを得ない学生が増加し、かつ複雑な学生が増え、担当教員だけでは個々の学生に対応できない状況であります。 そこで、学科内組織として「学生相談委員会」を設置し（現在委員５名）、学生に対する共通理解・共通指導が学科内でできるよう情報交換会を開催しています。また、学年担当者からの要望に応じて「ケース会議」(個別対応会議)を進めるようにしております。その際、専門的なご助言を得るため大学内のカウンセラーも同席いただいております。出来るかぎり学年アドバイザーが一人で悩むことなく、「チーム栄養」という共通認識の中で、学科教員全員で学生対応できるように取り組んでおります。 【立川看護学部看護学科 回答】 学年担任制(主担・副担の 2 名)を取っており、入学時から卒業までを同教員が担当します。相談事も担任が行います。また、保健室看護師、学校カウンセ

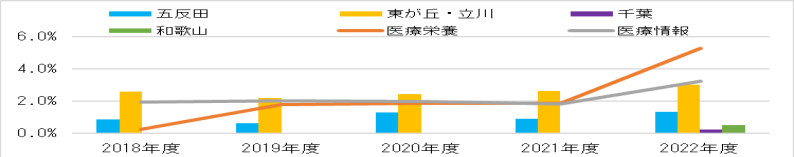
委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	ラー、就職・国試等は委員会、ゼミ担当教員と分担して何時でも学生のニーズに併せて教員が対応するように仕組みを作っております。委員会に於いても単位取得状況等含めて情報交換し、教員同士何時でも対応可能にしています。
7. 初年次教育におけるプレースメントテストの実施、分析、対策について評価いたします。(37 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 既に今年度のプレースメントテストの解析も実施しましたが、今後も継続的に解析を進め、必要に応じ改善を行っていきます。
8. 貴学管理栄養士課程の志願者減少及び全国的な減少について、中長期的な対策は検討されているのでしょうか。(38 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 医療栄養学科の志願者減少は、全国的な栄養士・管理栄養士志望者の減少もあり、今後更に悪化する可能性があり、大きな危機感を持っています。このような状況を打開するため、これまでの取組を見直し、今年度から、より重要な課題に資源を配分し、重点的に取り組むことにしました。 具体的には、カリキュラムの計画的見直し、リメディアル教育の改善、教育の質の向上、卒後教育制度の充実など、特に教育内容の更なる充実を図ります。この活動を着実に進めるため、各課題については、5 年及び 10 年後の数値目標を立て、四半期毎のレビューを行います。これにより、本学科の魅力を高めると共に、本学科の特徴や管理栄養士の魅力を外部に発信する機会を増やし、志願者の増加に努めていきます。
9. 1 年次からの国家試験模試実施は、目的（国家試験合格）から各科目を逆算することになるため、モチベーションアップにつながる良い取組と言えます。確認したいのですが、受講費用は学生負担でしょうか。（50 頁）	【東が丘看護学部看護学科 回答】 1 年次からの国家試験模試実施はどの学年においても受験費用は学生負担です。回数は学年によって異なりますが、授業料の振り込み時に一括払い込んでいただくようにしております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
10. 卒業生への就職支援及びキャリア支援の実施について、200 件余りの相談に丁寧な対応を実施されており、高く評価いたします。（53 頁）	【千葉看護学部看護学科　回答】 高評価をいただきありがとうございます。この 200 件については、学生の就職・進学先選定から受験の準備、内定/合格後の就職・進学先への対応等まで、学生のニーズに応じて全教職員が対応した結果と考えております。先輩おらずピア・サポートを得にくい状況だった卒業生に対して、教職員が一丸となって支援を行っています。
11. 高等教育機関コンソーシアムに参加し、他大学等と災害時対応について研究活動を行っていることは、地域に密着した取組として高く評価いたします。（55 頁）	【和歌山看護学部看護学科　回答】 和歌山大学の教員との共同研究でコンソーシアムから助成をいただきました。和歌山の「高齢者施設で要配慮者である高齢者と外国人介護職員の防災への意識向上と命を守る行動を啓発」するために施設管理者と外国人職員に調査を行い、マニュアル作成をしました。今後マニュアルの内容への意見、活用状況を踏まえ、改訂していく予定です。 月　日　災害準備チェック 出勤時確認 利用者人数　人 役割確認　通報担当 誘導担当 備品持ち出し担当 防災用具の確認 退勤時確認 車の燃料（常時半分以上） 避難時持ち出し品 ➢ 利用者一覧 ➢ 家族連絡先一覧 ➢ 薬（お薬手帳・処方箋） ➢ ➢ ➢

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
12. 医療情報学科の募集定員確保について評価いたします。この分野は、政府の成長戦略における重要分野としても位置付けられており、健康・医療・介護でのデータ利活用などにおいて、今後も活躍できる人材が必要とされます。貴学の積極的なアピールを期待いたします。（76 頁）	【入試広報部 回答】 安定的な定員確保については、課題を抱えている状況であります。しかしながら、このコロナ禍で医療分野における情報技術者の役割も知られるようになりました。「医療を支える情報技術者」「生命に寄り添うシステムエンジニア」の役割と、その価値について、高校訪問や出張講義などを通じて、しっかり伝えてまいります。
13. 医療保健学研究科修士課程感染制御学領域について、昨今のコロナ情勢に適した取組であると評価いたします。一方、感染症は 10 数年程度のスパンで流行するため、モチベーション維持が難しいという側面もあります。何か具体的な対策は実施されておりますでしょうか。（64 頁）	【大学院医療保健学研究科（修士課程）回答】 パンデミックの経験はどの分野においても前向きに生かしていかなければならないと思います。「リモート」での講義や研究相談が定着しつつあるので、今後も有効活用しながら課程を進めていく所存です。
14. 医療保健情報学領域専門科目の授業評価結果について、「授業内容をよく理解できた」「授業をほかの人にも薦めたい」の 2 項目が低い評価となっております。具体的理由について分析・対応は行われておりますでしょうか。（67 頁）	【大学院医療保健学研究科（修士課程）回答】 今年度の評価は報告書にも記載されているように、すべて「４」をキープし平均より低下した項目については誤差範囲と捉えています。 ただ、「低下」については注視していく必要があると考えています。
15. 医療保健学研究科博士課程看護学領域において、2020 年度の中退率が高くなっております。同専攻は収容定員を大幅超過しており、長期在籍者の中退者が増えたことが原因でしょうか。（68 頁及び公開資料）	【大学院医療保健学研究科（博士課程）回答】 就業しながらの社会人大学院のため、就業状況に左右されることが多く、仕事が忙しい、職位や職場の変更などの環境の変化による継続支援がなくなるなどの影響、また、年齢的に家族の高齢化など介護との共存の影響などが理由の一つです。しかしながら、後述のご意見にもありますが、本人の研究活動への意思とともに知識不足、それに対する教育支援なども影響しますので、その支援体制も検討しております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
16. 2020 年度以降看護学研究科博士課程の志願者及び入学者が漸減しております。具体的な分析は実施されておりますでしょうか。(公開資料)	【東が丘事務部 回答】 入学年度 2020 年度は、1 名の出願者が合格し入学しておりますが、2021 年度と 2022 年度は志願者 1 名ずつあったものの合格水準に達していなかったことから合格者ゼロでした。2023 年度も、前期試験を終えたところですが志願者はゼロでした。志望者減少の背景を考察するに、ご自身の研究分野に合致した指導者が、看護学研究科には居ないと受け止められていること、そしてコロナ禍で制限もあり研究活動そのものと論文執筆との両立が難しいと判断された看護師が多かったのではなないかと分析しております。また、2019 年度時点で、定員 6 名に対し在籍者が 10 名を超えたことから、在籍者への指導に集中すべく、対外的な新規募集の広報は控えた経緯があります。今は適正な人数となっております。 なお、本研究科では修士課程は年度 2 回の入学試験がありますが、博士課程は前期のみで運営していることも何がしかの影響があるかもしれません。 今後は、入学を希望する相談者が出来てきた時点で、後期入試を追加実施することも検討してまいりたいと存じます。
17. 全学生へのパソコン貸与について高く評価いたします。一方、自宅でのインターネット通信費用についても補助はされているのでしょうか。	【総務人事部 回答】 ご照会の自宅インターネット通信費用については、その他の費用も含めて補助はいたしておりません。
18. 貴学ホームページについて、通信が暗号化されていない http 仕様となっております。社会的な信頼を得るためにも、https 仕様への改善を推奨いたします。	【システム担当 回答】 http 並びに https にて弊学ホームページにアクセスできる仕様でしたが、 http から https へリダイレクトすることで全て https 仕様へと改善しました。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
19.科学研究費の申請件数や採択数が減少傾向にありますが、何か原因があるのでしょうか。対策を検討されているなら教えてください。 （99 頁）	【研究協力部 回答】 申請件数では平成 28 年度から右肩上がりで増加傾向が続いており、令和元年度が 55 件と最も多くなっておりましたが、令和 2 年度 47 件、令和 3 年度 30 件と減少しております。 考えられるのはコロナ禍の影響で研究にかける時間減少が考えられます。 その主な理由は、①コロナ禍により、対面授業からオンライン授業への対応のための準備作業等の業務増、②出席停止学生に対する個別学習指導③手探り状態での学修コンテンツの開発等による業務増などが考えられます。 教員の研究時間の減少については、日本看護系大学協議会（JANPU）の看護系大学教員のコロナ禍による研究活動への影響調査(2020 年度実施)においても、50%の教員が「研究に費やす時間が減った」と回答しております。 今後は科学研究費補助金の説明会への積極的な参加奨励や学部長・学科長等による所属教員への積極的な声掛けなども重要かと考えております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【髙戸委員】 1. 各学部、各学科の課題、目標が明記されています。特に COVID-19 対策の上での実習体制、デジタル化への対応、学習不良学生へのサポート体制も構築されつつあります。また、千葉看護学部のボランティア経験の評価などは、人間力向上のためにも重要な取組です。 一方で、タスクシフティングに向けた対応として、現場の医療で行われている麻酔対応の看護師の養成など、より高度な医療看護体制に向けた取組も今後必要です。国家試験合格率の情報公開が 2020 年以降ホームページではされていないようであり、留年率などを含め、わかりやすい指標の公表は可能であれば行い、大学の取組と関連づけてアピールするとより良いと考えます。	【教務部 回答】 教育情報の公表は、学校基本調査の数字と齟齬が無いように、集計した後に公開している関係から2021年度卒業生の国家試験合格率の更新が他の情報と一緒に７月末となってしまいました。次年度以降は、学校基本調査と関係ない集計に関しては、早い時期での更新を行いたいと思います。 留年率に関して公開している大学が少なく、本学の状況が良いのか精査して公開したいと考えています。  図 在学生に占める最低在学年限超過者（留年）の割合 ※東が丘・立川に関しては、単純に在籍者で比較すると割合が高くなるので2020年度以降は、東が丘看護学部と立川看護学部の在籍者数を足して集計している。
2. 本邦最大の看護師養成機関でもあるため、本邦の看護、医療保健教育を担う多種多様な人材育成が期待されます。また、その活動を発表する機会として、学内誌の充実や研究会などの機会提供を行い貴学生の業績づくりの上、教育できる人材育成を期待します。 これらにより、貴学の課題となっている社会人大学院生などによる修業最低年限内での教育が困難な事例に対する対策にもなると考えます。 またタスクシフティングにおける業務分担の在り方を大学から発信するとともに、看護・介護領域における国際化の取組に対する検討が必要です。なお、68 頁 9 行の博士論文の審査会の人数は、本人を含めて 5 人なのかはっきりしません。	【大学院医療保健学研究科（博士課程）回答】 本邦最大の看護師養成機関として、看護、医療保健教育を担う多種多様な人材育成が期待されます。ご指摘のとおり、院生の業績作りの上、教育できる人材育成を図るためには、その活動を発表する機会として、博士課程の研究進捗報告会を年 2 回実施していますが、さらなる研究会などの機会提供や学内誌を充実させることや学生の業績としての活用などの検討をして参ります。 また、ご指摘のように、大学からの発信や国際化の取組などの検討も検討し、充実させてまいりたいと考えます。 また、博士論文の審査会の人数は、主指導・副指導を含め、主査、審査委員、外部審査委員、主指導、副指導、本人となり、教員 5 名＋本人の 6 名で実施し

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	ています。不明確な表現で申し訳ありませんでした。
3.全体を通して、貴学教育においては、ICT 化やグローバル化、シミュレーションやエビデンスベースとした体制が重視され、一歩先を見越した医療を創造できる課題解決ビジョンが描かれており、評価できる点です。今後の課題としては、さらなる高みを目指して NTT データなどのシステムを利用した遠隔診断などを通じた医療者の負担軽減などに関しても、来る『働き方改革』に対応できるシステムも課題として欲しいと思います。 また、先進国では福祉人材を奪い合っており、わが国もアジア諸国を始めとする外国人の受け入れ・教育についてご検討いただきたいです。 さらに、超高齢社会を迎え、在宅や施設などの療養の場の選択、患者や家族が希望する緩和ケアやみとり、最近話題になっている腎不全「透析しない」選択など高齢者における新たな課題を積極的に捉えて、しっかりと検討して欲しいと考えます。	【瀬戸教授 回答】 Society5.0 への社会転換が進む中、大学間連携や産学連携を通じ新たな教育の形を目指すことはきわめて重要と考えております。このため学長は各学部・学科の教員から「DX マネージャー」を任命し、教育 DX を推進する取り組みを進めております。先般、琉球大学医学部附属病院のクリニカルシミレーションセンターにおいて Simulator Instructor Development を行いましたが、今後も同センターの協力を得て継続的に教員の資質向上を進めてまいります。 NTT グループについても、2021 年度から NTT ドコモ社員に授業を担当いただくなど連携を深めております。 アジアとの接点も強化すべき分野と考えます。台湾の秀傳医療グループとは 2020 年に「医療情報学に関する包括提携」を締結しました。アジア諸国では、高齢化対応とデジタル化が同時かつ急速に進んでいますので、本学として協力できることを模索しつつ、学生教育にも生かしていきたいと考えております。
4.報告書は大変細かく書かれており、その取組への真剣さが伝わってくる内容です。 一方で、昨年度と同様な内容の箇所も散見され、本年度の違いが何であるか分かりにくいです。また、資料作成に膨大な労力がかかっていることが予想され、本質である研究、教育の時間が割かれている可能性や、学内でも報告書を共有し教員が把握することが困難であることが伺えます。よって、来年度以降は必要に応じて、昨年度までの解決項目と本年度の課題等を明らかとしたまとまりのある報告書になると、より望ましいと考えます。	【企画部 回答】 ご指摘いただいたとおり、令和 3 年度までの「点検・評価報告書」は年度毎の達成状況等が不明確な点もあったことから、令和 4 年度を初年度とする「東京医療保健大学　第 3 期中期目標・計画」においては、6 年後の令和 8 年度に達成する中期計画と併せ、その間の年度毎の計画を定め、毎年度その達成状況等について客観的な評価指標により点検・評価することとしていますので、そのことにより、年度毎の達成状況等が明確化されるとともに、点検・評価も簡略化されますので、教職員及び評価者の負担は軽減されるものと考えております。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【盛田委員】 1.医療保健学部看護学科 コロナ禍で対面授業レベルが変動する中、主体的に学ぶ仕組み作りが着実に進行していることが報告書から伺われます。卒業時到達目標に対する自己評価に加えて、学年別到達目標の設定の検討に入られたことは重要です。各学年の到達目標を明らかにすることは、学生の自己評価がしやすくなるとともに、教員が学年の到達目標を意識した授業を行いやすくなりますので、一層一貫したカリキュラム運営に繋がります。学年別到達目標が確定された後には、DP の重みづけ、さらに、履修系統図の見直しへと着実に進めて行って下さることを期待しております。 ICT 活用において、ICT プロジェクトチームが、ICT リテラシー向上に努めその成果が出始めていることが報告されており好ましいものです。 コロナ禍での看護実践力獲得への努力において、昨年度に比較して対面での臨地実習がより多く行えたこと、行えなかった場合に ICT を活用した実習を臨機応変に実施されたことは評価できます。(31 頁) そして模擬患者の参画を再開したことは、教職員の努力の賜物と評価致します。学生が、知識を実践に繋げることの重要性を改めて深く自覚出来たことは、好ましいことです。臨地実習指導者講習会の実施は、指導教員の標準化とともに指導者能力の向上にもつながり、今後も一層充実して行かれることが望ましいです。(32 頁) グローバル化推進に関して、ICT を一層活用し、コロナ禍でもその質を落とさない努力をされていることを評価します。さらに NTT 東日本関東病院国際診療科外国人医師による英語クリニックは学生に魅力的に映ったものと存じます。(33 頁)	【医療保健学部看護学科 回答】 ご意見ありがとうございます。2022 年 5 月教授会にて当学科の学年目標が承認され、学生に説明いたしました。現在は授業科目における DP の重み付けを行いながら、履修系統図の見直しを検討しております。 今後もコロナ禍において大学と臨床施設の感染対策指針に則り、各領域教員が臨床現場と協働しながら臨機応変に対応していきたいと思います。また、感染により実習科目に出席がかなわない学生に対しては ICT を活用し、科目の到達目標達成に向けて柔軟に支援していきたいと考えます。 また、ICT 教育の発展に取り組むとともに、OSCE など、模擬患者の活用の問題もあります。別の質問でも回答させていただきましたが。模擬患者の質の確保とともに指導教員の質の平準化も含めて、教育方法などの検討に努めて参る予定です。 今後も、教員及び実習指導者と連携し、指導教員の標準化とともに指導者能力の向上に取り組んでいきたいと思います。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
2.医療栄養学科 課題①改定カリキュラムに対する学生アンケートの結果が、ある程度満足できるカリキュラムであることを示したことは教職員の努力の結果であろうと思います。さらなる改善に向けて、例えば教員相互の授業参観など同僚評価は既に導入されておいでですか。(34 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 教員相互の授業参観による同僚評価は、カリキュラム改定前に導入しておりました。カリキュラム改定時には、科目間連携のための材料としても活かしました。さらなるカリキュラムの改善に向けて、改めて教員相互の授業参観やシラバスの相互確認など取り入れていきたいと考えます。
3.課題②コロナ禍が終息しても、ICT を活用した授業の重要性は増すものと存じます。しかし教員間でも ICT リテラシーは必ずしも、均質ではありません。構造化された FD やワークショップの実施の必要性についてお考えをお聞かせください。(35 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 医療栄養学科の教員ならびに 1～4 年生の在校生を対象に、令和 4 年度に教育の質の向上に関するアンケートを実施しました。現在、集計と解析を行っております。結果を踏まえ、学生の不満及び改善要望点を学科教員に共有するとともに、学科教員との勉強会を設け、授業における ICT の様々な活用実例や方法を紹介し、さらなる教育と質の向上を目指していきたいと考えております。
4.課題③④どちらの課題においても、新たな取組を取り入れるとともに、振り返りを実施し PDCA サイクルを回していることが報告書から伺えます。(36 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 昨年度までは、学科内で各課題のレビューを半期毎に実施しておりました。これを、今年度から四半期毎に増やし、更に PDCA サイクルを回しやすい体制に変更しました。引き続き、レビュー後の改善が進むよう取り組んでいきます。
5.課題⑤医学部や看護学部は理系と称されますが、国語力が全ての基盤です。人間と関わる分野ですので、十分な国語力を有することは必須です。入学後のパフォーマンスが化学の成績に深く関わっている結果は興味深いものです。このように IR 部門と継続的に連携されることで、必要で適切な教育が学生に提供され続けられますようお願い致します。 (37 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 国語力の強化は重要で、学生が提出するレポートに対して各教員がそれぞれ正しい日本語・文法、文章の書き方（主語・述語・修飾語)、ロジカルな文章などを重点に学生に指導するようにしています。今後も継続的に入学時学力や成績の解析を進め、客観的な結果を元に、必要と考えられる教育を提供できるようにしていきます。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
6.課題⑥社会貢献の観点からもボランティア活動は重要です。 意欲があってもやり方が分からない学生が多数存在していることが分かったことは収穫であろうと存じます。学生の地域との関わり・共生に繋がる場の提供を支援する取組を一層進めていただけますようお願い致します。(37, 38 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 コロナ禍で中止となっていた社会活動も開始され、4 月から地域団体へのボランティア活動への参加を実施しています。コロナ禍ですので、学生及び対象者に対しての不安には充分に配慮をして進めております。現在進めている分野は、子どもの付き添い入院をするご家族や高齢者世代対象の団体へのボランティア活動、農業体験を通じた地域住民や高齢者施設利用者との交流及び食育のボランティア活動です。今後は希望する学生がボランティア活動に参加できるよう、周知方法や教員間で情報共有など体制づくりを進めてまいります。
7.課題⑦AP に沿った学生の受け入れは、大変重要です。志願者減、入学者の基礎学力が不十分、留年・退学者増、国試合格率低下の悪い循環に繋がりますので、入学者選抜と入学者確保の両立は簡単には解決できない問題であろうと思います。18 歳人口が減少する中、「選ばれる大学」「選ばれる学部・学科」であり続けるために、教職員一丸となって努力していただけますようお願い致します。(38 頁)	【医療保健学部医療栄養学科 回答】 本学科の魅力を更に高めるため、今年度から、これまでの取組を見直し、より重要な課題に資源を配分し、重点的に取り組むことにしました。各課題について数値目標を立て、学科一丸となり進めていますが、着実に実行するよう努めていきます。(今村委員のご意見 8 への回答もご参照ください。)
8.医療保健学部医療情報学科 長期目標に対する DP の見直しと短期目標に実現への努力を併行して実施されることは大変であろうと存じますが、重要な点です。改定 DP に基づく AP、CP そして assessment policy 策定へと進めて行ってくださいますようお願いします。短期目標の実現に向けて、自己評価とそれに基づく改善に着手されていることは、現場での PDCA サイクルがしっかりと回っていることが伺われ、評価できます。(39, 40 頁)	【医療保健学部医療情報学科 回答】 少子高齢化・人口減少等の医療保健をとりまく課題は、日本に限らず世界的な問題となっています。また、近年の情報通信技術の進歩はめざましく、その社会への還元においてデータサイエンスの重要性が増しています。一方、デジタル技術やデータサイエンスへの期待と裏腹に ELSI(倫理・社会・法的問題)が表面化してきており、技術や学問の社会への適用においては新たな倫理観、価値観も必要とされています。情報通信技術と情報学を修得し、その社会への適

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	用に必要な価値観、倫理観をもった情報技術者・データサイエンティストを輩出することが我々の社会的責務と考えており、長期・中期の目標に対して3つのポリシーを見直しています。 他方、医療情報学科の現状においては、入学生の定員割れと言う問題にも取り組まねばなりません。少子化による18歳人口の減少は、大学進学者の減少という数の問題だけではなく、大学への価値観も変わってきていると考えています。短期目標を実現することは、上記の社会的責務を果たす上でも、また、医療情報学を選んでくれた学生の将来のためにも必要なことであり、様々なデータに基づき、適切な距離感で学生と接しつつ、組織・個人として教育力を向上することで、学修者本位の学びを提供できるように努力していきたいと考えています。
9.東が丘看護学部 貴学部における5項目への取組は、そのいずれもがtomorrow’s nurseの育成に繋がるものです。中でも全領域でのアクティブ・ラーニング授業の実施とその学修成果の確認は、評価します。コンタクト・グループの組織化はコミュニケーションを図る場として有効であったと思います。 地域社会との連携や地域への貢献も、新たな取組を開始するなど工夫してコロナ禍にも関わらず継続実施していることは評価に値します。 先進的研究の推進に係る活動にFD/SDの構造的実施は欠くことが出来ない取組であろうと思いますが、開学後から現時点まで研究論文数、科研費など公的競争的資金の獲得数は右肩上がりでしょうか。(44頁) 多文化共存に開かれた大学院教職員の研鑽において、海外大学とのオンライン研修が実施されていますが、参加人数がやや少なく感じます。	【東が丘看護学部看護学科 回答】 ・各項目に対する取組につきまして、詳細に確認いただき評価していただきました事につきまして感謝申し上げます。 ・先進的研究の推進につきまして、高度実践看護コースならではの取組を実施しております。事例研究や症例研究を避け出来るだけエビデンスに繋がるような研究成果を出していくように努力し、学会で公表するようにしております。公的競争的資金獲得数も多く、右肩上がりになっております。全学の中で東が丘看護学部としてはトップです。 ・海外大学とのオンライン研修につきまして、参加者数は実際に海外に行かずにオンライン研修であり、費用も学生に取っては高価であり躊躇した学生が多かった結果です。 ・臨地実習につきましては、直ぐ隣に実習施設があり、白衣のまま移動可能な

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
妥当な数字でしょうか。(44 頁) 看護の知識を実践力に繋げるには臨地実習は必須であり、コロナ禍でも臨地実習率を昨年に比して向上させたことは教職員の努力の結果であります。さらに、「出来ないとき」の代替実習においても臨地実習と同等な学修目標の達成を目指す方針は、まさにそのとおりです。行わざるを得なかった代替実習の具体的事例とそれに対する評価があればお教えいただきたく存じます。(45 頁)	距離であり、実習に対する病院側の幹部の寛大なる理解と病棟指導者の協力により、代替実習の提案を受け入れていただきました。学生が受け持つことの了解を得、患者情報を看護師から提供、看護計画立案、計画に基づき実践のみ実習室で患者役に実施、評価のプロセスを踏み、ほぼリアルに指導者から指導を受け、カンファレンスを行い実習修了。患者の生の反応は無く。 雑誌投稿済み実践報告:竹内朋子/山西文子/佐野由紀子/杉崎けい子、臨地実習制限下における「看護学実習ガイドライン」に基づいた取組、看護教育、2021.Vol62.No3
10.立川看護学部 1～8 のどの具体例においても、コロナ禍からの多くの学びと工夫により ICT の活用を一層進めることで、対面と遠隔との組み合わせにより学修効果の向上に繋げようとされた様子は評価に値します。 遠隔授業において、臨地実習が出来なくなった病院（病棟）と連携してビデオ教材を作成し、学生に臨場感を与える工夫をされたこと、また、対面授業においては、事前学習課題を提示することで対面での時間の短縮努力をされたことも高く評価します。映像教材やシミュレーターによる臨床現場の再現に対する学生からの評価はどのようなものでしょうか。「前向きな意見」と書かれておりますが、アンケートなどによる学生からの評価結果をお教えください。(47 頁) そして、これら様々な工夫をされた結果、臨地実習と同等もしくはそれに近い学修効果を得ることが出来たとお考えでしょうか。 「3.グローバル化に係る計画」において、「老年期看護論では英文を含む試験を実施した」と記載があります。この評価において、英語能力と老年期看護論の理解度（習熟度）の両方を測定するのは困難（英語	【立川看護学部看護学科 回答】 まず「映像教材」に関しては、実習予定であった看護部の全面的協力により、「学内で学んだ基本的な知識や手技が、実習施設の機能や保有する医療機器、さらには患者の個別性などにより、どのような応用・工夫が必要か」などについての映像を見せながら、現場の看護師によるリアルタイム Zoom での質疑応答を行いました。学生からは「実際の現場でしか気が付けないポイントに絞られていたので分かりやすかった」「現場の生の声が聞けて良かった」等の前向きな意見もみられました。ただし、今回の動画では重要なポイントを順に提示しているため、学生は情報に対して受け身になってしまいます。 今後は「一連の動画を見ながら、学生が自分で気付く」というような形式の動画作成も検討したいと思います。 また「教育用電子カルテとシミュレーターを用いた臨床現場の再現」に関しては、周手術期患者の事例で看護展開し、情報収集やアセスメントを行いました。点滴やドレーン、膀胱留置カテーテルを装着し、モニターにて心電図や SpO_2 の動的変化も確認できるようにすることで臨床現場の再現に努めました。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
力不足により理解度が低いのか、看護論そのものの理解が足りないのかを判別することが難しい）なのではないかと存じます。評価における工夫をお聞かせください。（47 頁） 「5.「社会が抱える課題」に係る計画」において、環境測定を実施されたことは評価できます。学生からの評価は芳しくなかったようですが、今後「たばこの煙」を使うなどすることで「異常値」を体験できると学生の興味が一層高まると存じます。（48 頁）	多くの学生はシミュレーターによる回答だけでなく、教員を含んだディスカッションが十分できたため「対象の理解や思考力向上に繋がった」と述べていました。シミュレーターの症例数が少ないのが残念ですが、その分同じ症例に対する対処方法について学生間でのディスカッションが可能なため、事前学習としては十分なレベルであり、来年以降も続けていきたいと考えています。 なお、昨年度の学生からの授業評価アンケートでも、「看護学統合実習」の「総合評価」が 4.8（平均 4.4）ととても高く、「遠隔でも学びやすかったか」という質問に対しても 4.3（平均 3.7）と高評価でした。 「英文を含む試験」に関しては、対象が 2 年生ということもあり、老年期看護で必要となる専門用語について、講義中に解説したり、その用語を含む英文について課題を課したりしています。課題で出された英文を含む問題を出題しているというレベルであるため、定期試験で英語能力に関して評価している訳ではありません。2 年生は英語の教科（実用医療・看護英語）が別にありますので、老年期看護学内では、英文講読などが必要になる将来に向けて、あくまで英語に慣れ親しむことを前提にしています。 「環境測定」に関しては、「自動車の排気ガス」や「たばこの煙」などの測定も検討しましたが、学生が汚染環境に曝露してしまうという倫理的な問題も考慮し、昨年度は測定を見送りました。今後は、事前に採取した気体サンプル（排気ガス、たばこの煙、燻製の煙など）について、「各種項目を測定することで、どんなサンプルなのかを考察する」などの演習方法も検討したいと思っています。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
11. 千葉看護学部 完成年度を迎えられた貴学部は、他学部に比較してコロナ禍により強く翻弄されたことと存じます。その中においても国試合格率 99.0%、保健師合格率 95.0%を達成されたこと、そして卒業後の進路においても、千葉県内外多様な医療機関に全ての学生が就職されたことは高く評価できます。今後は在学生への学修支援と就職支援を一層充実していただくとともに、卒業生に対してもその後の状況を把握し、在校生と卒業生とのコンタクト・グループミーティング開催に繋がることを期待しております。(53, 54 頁)	【千葉看護学部看護学科 回答】 ご高慮いただきましたように、千葉看護学部では 2020 年度に 3 年目を迎えた段階であり、特に実習については臨地との関係性をこれから構築しようというところでコロナ禍の波に見舞われました。しかし、多くの授業計画を日々感染拡大状況に応じて調整していきながらも、教育の質を落とさないように、他学部から情報をいただき教職員一丸となって必須な学生支援を実施してまいりました。また何よりも学生自身が社会・医療の状況をよく理解し、前向きに取り組んだことが結果につながったと考えます。千葉看護学部としては広く国全体をとらえるとともに、船橋市及び千葉県の看護の質向上に貢献することが重要なビジョンと考えますので、ご提案のとおり、在学中には制限されがちであった先輩と後輩のつながりを改めて構築する機会を設定するなかで、教育活動を評価するとともに、卒業のその先も見据えた千葉看護学部らしさを探索していきたいと考えます。
12. 和歌山看護学部看護学科 貴看護学科は、「わかやま学」のもと、地域への情報発信、地域での実習、地域でのボランティア活動への参加、さらに地域で共存する異分野の大学と連携するなど、地域との繋がりを一貫して重視されており評価されます。このような様々な活動を通じて、卒業生が地域と繋がったキャリアパスを歩んでいる具体的事例をお聞かせください。 また、地域住民への貴学に対するアンケート調査を経年的にされているようでしたら、その解析結果をお示しください。(54, 55 頁) 中期計画に関連して、ベトナムのナムディン大学と連携協定を締結され、そして早速、遠隔での交流を実施しその参加者も 25 名に上ったこ	【和歌山看護学部看護学科 回答】 地域とのつながりでのキャリアパスについては、地域の医療施設からの卒業後の就職を前提にした病院奨学金制度が自分の将来を考えるきっかけになります。「東京医療保健大学専用枠」を設けていただいている病院から学生に、どのようなキャリアパスが準備されているかを聞いて希望する病院があれば奨学金を申し込みます。卒業生が就職して 4 か月になりますが、連携病院である日赤和歌山医療センターに就職した卒業生に関しては、基本的技術についての集合研修と病棟のローテーションをしていることを卒業生から聞いており、他の医療施設に就職した卒業生についても大学説明会に派遣していただき紹介

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
とは、皆さまの努力が結実したものと存じます。今後は定期的な交流やさらには単位互換など正規カリキュラムに組み込むなどの方向をお考えでしょうか。(56 頁) 国家試験関連では、保健師の合格率が振るわなかったように思えますので、原因を明らかにし、低学年からの学修支援などに取り組んでくださいますようお願い致します。	をしてくれました。また日赤和歌山医療センターと連携して運営している看護実践研究センターにおいて新卒看護師の悩みや思いを共有する機会として「新卒看護師集いの会」を開催し、前向きになれるための支援を行っています。 現在進めている「教育課程と成果の可視化」が完成すれば、卒業時の能力を地域の就職先に繋ぎ、継続して生涯学習が可能になると考えています。 地域住民への経時的なアンケートは実施しておりません。ただ、地域に向けての公開講座、研究への調査への参加、看護教育ボランティアなど様々な機会に地域住民との交流と評価を返していただいております。 ナムディン大学とは今年度も大学との交流会、さらにベトナム以外も含め在日外国人との交流を予定しております。しかし踏み込んだ内容についての話し合いはできていないために、単位互換についてはまだ考えておりません。 和歌山看護学部では 45 名が保健師課程を履修できるようになっています。 選考は資質の確認と成績評価で行っていますが、希望すれば学年の半数の学生が履修できる仕組みになっていました。1 期生は受験にかかる単位を取得した 41 名が受験しましたが、看護師国家試験合格に向けての支援が必要な学生も含まれていました。この結果を受けて、2022 年度の選考から、一定の成績に達することを条件に進めていきます。また、ご指摘にありますように低学年からの学修支援を進めていく取組も始めました。
13. 助産学専攻科 助産学専攻科においては、コロナ禍において助産実践能力の育成に腐心されたことと存じます。ICT の活用や感染対策により対面と遠隔を併用することでコロナ前と同等な学修目標への到達を可能としたことが示されており評価されます。さらに指定規則変更に伴うカリキュラム改変も適切に行われております。今後も地域と連携し地域社会に貢	【助産学専攻科 回答】 ICT の活用や授業の工夫・対策を評価していただき有難うございます。継続して育成できるように尽力していきたいと思います。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
献できる医療人の育成に尽力していただくことを期待しております。（58 頁）	
14. 医療保健学研究科修士課程 修了までの期間が短い修士課程においては、コロナ禍の影響をより強く受けるであろうと思います。そのような中、6 つの領域その全てにおいて、対面と遠隔、Zoom と Teams の使い分けなど 2 年目を迎えたコロナ禍の中で全ての教員の工夫により、より良い授業が進行した様子が報告されていること、そして、省察による改善すべき点が明確に記載されていること、いずれもが評価できます。医療保健情報学領域専門科目の授業評価の概要（表 1）において、平均の推移が全ての項目の点数が低下していることが気になります。誤差範囲と説明されていますが、少し丁寧に解析・検討する必要があるかもしれません。（67 頁）	【大学院医療保健学研究科（修士課程）回答】 評価に関してはすべて「4」をキープし平均より低下した項目については誤差範囲と捉えています。しかし、ご指摘とおり、遠隔講義の影響などの有無など分析してく必要はあると思います。今後検討いたします。
15. 医療保健学研究科博士課程 感染制御学、看護学とも最低修業年限で修了できない学生が増えないように腐心していることが伺えます。以下、お教えください。感染制御学における「休学制度の活用」とは、修了困難な学生を「休学」として、仕事との両立が可能となった段階で復学させ修了に向かわせる、という対応を意味しておいでですか。（67 頁） 看護学において、教員の個別指導体制による短所が記載されています。（68 頁） 貴過程では、研究指導計画書や進捗状況報告書の作成・提出、複数教員（指導教授と副指導教員数名）による指導を実施されていますか。	【大学院医療保健学研究科（博士課程）回答】 「休学制度の活用」とは、修了困難な学生を「休学」として、仕事との両立が可能となった段階で復学させ修了に向かわせる、という対応を意味するものと、就業しながらの院生にとって、休学を挟みながら 5 年間の休学期間を活用して時間の猶予を担保することは研究時間を担保することができるので活用する場合もあります。 教員の個別指導体制では、教員個の考えに固定され学問の範囲に限界が生じやすいこと、人間関係として相性が合わないことや、討議上で理解が難しいなどの問題が生じやすいため、主査・副主査のほかに、指導教官と副指導教官の 2

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
また、定年間近の指導教授は、新たな学生を募集しないこととされていますか、もしくは複数指導体制のもと、定年間近の指導教授でも学生募集は継続されておいででしょうか。	名体制にしています。 このため、この問題は解決していると言えます。故に、当学は、研究指導計画書や進捗状況報告書の作成・提出、複数教員（指導教授と副指導教員数名）による指導を実施しています。また、定年間近の指導教授は、その指導教授だけが指導している場合は、新たな学生を募集しないこともありますが、複数指導体制のもと、定年間近の指導教授でも学生募集は継続しています。この体制は、若い指導教員の指導も兼ねており、定年後の優れた指導教授を招いて研究指導を学んでいいます。
16. 看護学研究科修士課程、博士課程 貴過程においても、2 年目を迎えたコロナ禍で、対面と遠隔、OSCE やシミュレーションを活用して判断力、実践力そして教育研究・管理能力を備えた高度実践看護職の育成に努力されたことが報告書から知ることが出来ます。地域との連携・共生、社会への貢献に関する活動もコロナ禍においても工夫しながら継続されておられること、学生へのアンケートを通じて PDCA サイクルを回し、改善に繋げられている姿は、ともに評価できます。	【大学院看護学研究科 回答】 本研究科の取組につき、ご評価をいただきありがとうございます。コロナと共生する今後についても、社会に役立つ高度実践看護職の育成に向け、常に PDCA サイクルを回しながら、より良い課程にすることに努めていきたいと思います。
17. 和歌山看護学研究科修士課程 入学前教育の導入などの工夫により、10 名の修了者を出されたことは評価できます。指導教授個人に依存しない、複数指導体制を敷く、研究計画書や進捗状況報告などを通してフォローするなど行い、最低修業年限で皆が修了できるようにこれからも努めてください。志願者・入学者確保が課題であろうと存じます。社会人でも学びやすいカリキュラム、大学院で学ぶ意義とともに修了後のキャリアパスを連携病院	【大学院和歌山看護学研究科（修士課程）回答】 12 名の入学で 10 名の修了できましたことを評価していただきありがとうございます。指導教授以外は大学院教育が初めての教員でスタートしましたので、3 つの領域で複数指導体制を敷いて、教員の育成も意識した 2 年間でした。3 年目の今年からは大学院教育経験を積んだ教員を配置し、さらに複数指導できるようにしていきたいと考えています。ご指摘のように、入学者の確保が困難

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
の看護職の方々に一層お示しくださいますようお願い致します。	になってまいりました。連携病院や実習受け入れ施設を中心に、直接出向いて大学院での教育の必要性などを説明に行っておりますが、新型コロナ感染症対応で看護職が疲弊している状況で、次年度の学生確保も難しいと感じております。将来に向けて、働きかけをしていきたいと思っています。
18.千葉看護学研究科修士課程 令和3年度9名に対して令和4年度11名の入学者を得たことは、2回の大学院説明会や個別相談会の実施など、教職員一丸となってのきめ細かな努力の賜物と存じます。そして多彩な入学生を獲得されたことは、多様性をもって協働して学ぶ態度の涵養にも繋がりますので、大変好ましい結果であろうと存じます。課程学生が皆揃って、最低修業年限で修了することに努めていただくことを期待しております。	【大学院千葉看護学研究科（修士課程）回答】 千葉看護学研究科のDP等に関心をもった受験者が集い、定員の8名を超える入学者が得られたことは、ご指摘いただきましたように、ややもすると自病院のみの経験にとどまりがちな看護職者にとって、相互交流を通してより広い知見を得るとともに、協働を学ぶという点において有意義な成果を生んでいると考えております。一方、3年度については、院生全員が職業を継続しながら学ぶ社会人であり、本務でCOVID-19の対応に追われるなど大学院生としては負荷や制約の多い状況が続いております。このため、入学前に科目等履修による単位取得で負荷を軽減できることや、学生1名に主と副の指導教員を置き、手厚く多面的な指導の下で遅滞なく修了できることを目指した体制としております。
19.学長を議長とする内部質保証推進会議、自己点検・評価委員会、外部評価委員会そしてIR推進室、そして各部署がそれぞれの役割を演じ、PDCAを各階層で適切に回すことで、学生ファーストに考えた改善・改革が着実に実施されていることが報告書から読み取ることが出来ます。このような目に見える取組が、文科省大学改革推進等補助金である「デジタル活用高度専門人材育成事業」「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる人材養成事業」の採択に繋がったものと存じます。	【企画部 回答】 評価いただき誠にありがとうございます。引き続き学習者本位の教育の実現に尽力してまいります。また、平成29年度に策定した「東京医療保健大学ビジョン」に基づき、令和4年度を初年度とする「東京医療保健大学　第3期中期目標・計画」を策定しておりますので、こちらも着実に推進してまいります。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
最後に「東京医療保健大学ビジョンイメージ」は、視覚的にも大変わかりやすく、掲げられているビジョンは貴学の特徴と今後の方向性を明確に示しておりますので、一層「選ばれる大学・大学院」となるべく着実に歩を進めていただくことに期待しております。	

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
【山本委員】 1.COVID-19 蔓延下の教育は苦労が多いことと思いますが、遠隔授業ツールなどを活用され努力されている点を評価すべきだと思います。(31 頁)特に貴学は医療情報学科を擁しており、パンデミック下での新たな教育方法展開を率先して進めていただきたいです。 文科省からの DX 教育に関する補助金等を十分活用してほしいと思います。	【医療保健学部医療情報学科 回答】 COVID-19 による様々な制限は、我々のこれまでの教育を見直す絶好の機会であると考えております。大学としては、今後の授業形態は従前の対面授業のみの形態に後戻りするのでなく、これまでの遠隔授業や代替実習等の実践経験と評価を踏まえ、ICT を積極的に活用した教育をおこなっていく考えです。医療情報学科としては、学長戦略本部、総研研究所（教育 DX 研究ユニット）での活動を通して、全学的な DX を加速させていきたいと考えています。 文部科学省の補助金では、学修者本位の学び、新しい学びの転換、専門分野とデジタルの掛け合わせなど DX 推進による社会・教育の変革が強調されております。産業 DX の補助金では、世田谷キャンパスの教室のデジタル空間としてのインフラの整備を進め、充実したアクティブ・ラーニングの実現、遠隔授業の充実、ハイフレックス型授業への対応、臨場感を高めた企業の授業への参加等新たな教育方法を確立していきたいと考えています。サイバー空間・フィジカル空間でのあらゆる方法を組み合わせて、学生のやる気を刺激するような一歩先の教育方法を展開するように今後も努力いたします。
2.グローバル化へのとりくみ(34 頁, 44 頁)：在校生の参加が少ないのではないかと思いました。少なくとも半数以上の参加が可能なように日程等を工夫されてはいかがかでしょうか。	【国際交流担当 回答】 海外研修については、令和 3 年度には大学として、9 月にグリフィス大学オンライン研修（3 回目）を、令和 4 年 3 月にはオンラインハワイ研修を初めて実施しました。研修内容は回を重ねるごとに充実していますが、学生のオンライン海外研修離れが生じていることは否めません。令和 3 年度にオンライン海外研修（9 月、3 月）に参加した学生及び教員の総数は 38 名で、その内訳は次のとおりです。【学生：23 名、教員：15 名】 大学の規模から考えると、学生の参加者は少なくとも各回 25 名程度期待した

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	いところですが、本学の海外研修はすべて希望者を募る募集型で、研修費用はすべて学生負担となっているところが学生にとっては高いハードルとなっています。それが、参加者が伸び悩んでいる一つの要因でもあると思われます。コロナ禍が落ち着いて現地研修を再度計画するとしても、ウクライナの戦争に端を発する海外の物価の急騰及び円安の影響が心配されます。 現段階では、現地研修が実施できるようになったとしても非常に高額なものになる可能性があり、今後どのような国際交流プログラムを実現していくか、国際交流委員会において、十分な検討が必要なところです。
3.博士課程で期限内に卒業できない人が多い(68 頁)ことは問題で、書かれているとおり教育課程の見直しが必要だろうと思います。1年次からの計画的な進め方が大事なので、モデルタイムスケジュールを作るなどして管理してはどうでしょうか。海外のように、学位論文の研究計画を審査する qualifying examination 制度なども検討してはいかがでしょうか。	【大学院医療保健学研究科（博士課程）回答】 ご意見及びご提案をありがとうございます。修士も博士課程も1年次は、2020年のカリキュラム改正後、文献レビューなど研究方法論を通して、研究の基礎力を確認・向上させてから各専門分野の学修に入るように変更いたしました。結果、統一した教育の効果がみられ、タイムスケジュール(time schedule)、いわゆる予定表を作成までされるようになりました。しかしながら、専門領域に入り、新たな研究課題を目前に後退してしまうこともあります。そこで、博士論文研究基礎力審査 Qualifying Examination（博士課程の学生が本格的に博士論文作成に係る研究を行う前に、研究を主体的に行うために必要な知識や能力を修得しているか審査する仕組み）の導入は、この審査に合格することは区分制博士課程において前期課程修了に相当するとも考えられていますので検討していきたいと考えます。

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
4.科学研究費申請は大学教員としての大前提だと思います。採択率を上げる努力も必要ですが、まず申請率の算出が必要だろうと思います。 (99 頁) また、複数申請も可能なので、准教授以上は特に申請率が 100%を超すことが期待されます。	【研究協力部 回答】 申請率については、これまで一番高い令和元年度で全教員の 24%程度となっており、最近ではコロナ禍の影響もあり 20%を割っております。 申請率を上げるためには、やはり科学研究費補助金の最新情報の提供及び申請意欲の向上を図る上でも申請数・採択率の高い外部講師を招くなど工夫を凝らした説明会や参加しやすい環境が重要と考えております。 昨年度よりオンラインで全キャンパス一斉に説明会を開催しておりますが、令和 4 年度については参加しやすい日程等も考慮した結果、これまで最多の 162 名の参加者がありました。 今後は説明会に加え、各学部長・学科長等から所属教員への声掛けなども効果的かと思料されますので、積極的に協力をお願いして参ります。
5.評価のための客観的データを KPI として定め、継続的に活用してはいかがでしょうか。	【企画部 回答】 令和 4 年度を初年度とする「東京医療保健大学 第 3 期中期目標・計画」においては、6 年後の令和 8 年度に達成する中期計画と併せ、その間の年度毎の計画を定め、毎年度その達成状況等について客観的な評価指標(KPI)により点検・評価することとしていますので、そのことにより、年度毎の達成状況等が明確化されるとともに、点検・評価も簡略化されますので、教職員及び評価者の負担は軽減されるものと考えております。
6.課程数が増えてきたのでそれぞれの進捗状況が把握しにくく、報告書のありかたを工夫してほしいと思います。	【企画部 回答】 上記 5.の対応により、「点検・評価報告書」もよりわかりやすいものに改善してまいります。